

主演:役所広司 宮崎あおい 宮崎将 斉藤陽一郎 国生さゆり 光石研 利重剛 松重豊 塩見三省 真行寺君枝 尾野真千子監督・脚本・編集・音楽:青山真治 プロデューサー:仙頭武則 撮影:田村正毅

照明:佐藤譲 録音:菊池信之 美術:清水剛 音楽:山田勲生 助監督:七字幸夕

電通+IMAGICA+サンセントシネマワークス+東京テアトル 制作プロダクション: サンセントシネマワークス 配給: サンセントシネマワークス+東京テアトル ①WORK

世界の絶賛を浴びた癒しと再生の一大叙事詩

クロマティックB&W | シネマスコープ | 3時間37分! 世界が絶賛!! スクリーンに写し出される日本未体験の感動 EUREKA・・・・・ギリシャ語で「発見」の意。

「生きろとは言わん。死なんでくれ」

ある九州の田舎町で、バスジャック事件が発生した。生き残った運転手の沢井(役所広司)と直樹・梢の兄妹(宮崎将・宮崎あおい)は、心に大きな傷を負ってしまう。そ れから2年が過ぎ、町に戻った沢井は、2人きりで暮らす兄妹とともに暮らし始める。そこに従兄の秋彦(斎藤陽一郎)も加わり、4人の奇妙な家族生活が始まった。そんな中、彼ら の周辺でまたも殺人事件が続発する。沢井は小さなバスを買い、喧噪の町をぬけて4人でゆくあてもない旅に出るのだが・・・

監督は俊英・青山真治。主演に今や名実ともに日本を代表する俳優となった役所広司を迎え「ただ誰かのために生きること」を真摯に描いた。「自分」のためにばかり生きることに奔 走し、疲れがちな私たちがわすれかけた「何か」。その「何か」を探す3時間37分の旅の終幕には、未体験の美しい映像と息を呑む感動が待っている。

「他人のためだけに生きるっちゅうとはできるとやろか…」九州の雄大な風景のもと描かれる『Helpless』から続く物語。

Q:『Helpless』を撮った時に、この映画を始まりとしたサーガ的なものを自分が作ると思っていたのですか?

青山真治:『Helpless』が出来てしばらくしてからですね。これは続けよう、と。脚本書きの段階から予感はあったんですけど。昭和が終わり、平成になったというが、歴史 の流れはそんな区切りでは収まらない。その流れを「点」で押さえていくような連作が出来れば、と思ったんですね。

Q: 『EUREKA』とは「我発見せり」という意味のギリシャ語ですが、このタイトルに決めたのは?

青山真治:結局、主人公たちが最後に「何か」を発見して終わるということでしょう。「何か」は知りませんが、漠然とした言い方しか出来ませんが、彼らはこのリアルな世 界で「生きる」ということを発見するんだと思います。



早(も本年度ベストワンの呼び声高く! 3月17日(土)より感動のロードショー!!(3/30金書)

- 窓口にてお買求めの方にはオリジナルポストカード(2種) 般¥2500/学生¥2000/シニア(60才以上)¥1500
- テアトル梅田共通回数券をご使用の方は差額500円をお支払いください ●完全入替制/本編開映後はご入場いただけません"混雑時には整理券を配布いたします"

途中休憩はございません 10:20 2:25 6:30~10:20